

若い世代どう動く／将来を考え2票分与えよ

西日本新聞、2009年8月21日

若い世代の影響力が構造的に小さくなってしまっているのが現在の選挙システムだ。1人1票の制度は人生50年の時代につくられた制度。少子高齢化が進む現在では、ゆがんだ人口構造がそのまま「民意」として反映されてしまう。年金暮らしや、老後のことを考える人々の意見だけが通る政治になるのは必然だ。利益代弁者が政治的に少ない若い世代は、むなしただけだろう。

大切なのは10年先、20年先の日本のあり方を問うこと。日本の将来を考えるのなら、若者に2票分の選挙権を与えたり、20歳未満の子どもを持つ親に子どもの数に応じた選挙権を与えたり、といった工夫が必要だ。